

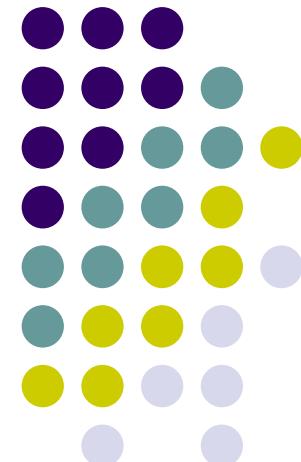
# 数理手法III

## (数理最適化) 第5回

### 二段階单体法

塩浦昭義

東京工業大学 経営工学系 准教授



**shioura.a.aa@m.titech.ac.jp**

**<http://www.me.titech.ac.jp/~shioura/shioura/teaching/TUmp17/index.html>**



## 今後の予定

- 11/1 第6回目 --- 組合せ最適化その1
- 11/8 第7回目 --- 中間試験
- 11/15 第8回目 --- ネットワーク最適化その1

# 中間試験について

- ・日時: 11月8日(木) 13:05~14:35
- ・場所: 工2号館 212講義室(授業の部屋)
- ・手書きのA4用紙一枚のみ持ち込み可(印刷やコピーは不可)
  - ・これも採点の対象、試験終了後に回収します
- ・教科書、ノート等の持ち込みは不可
- ・座席はこちらで指定
- ・試験内容: 11/1(第6回目)までの講義で教えたところ
  - ・様々な数理計画モデル
  - ・線形計画問題: 標準形、単体法、各種定理
  - ・組合せ最適化: 分枝限定法
- ・50点満点、20点以下は不合格

# 単体法の問題点



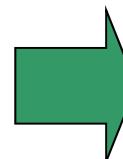
- 反復回数は有限か？  
**巡回(cycling)** — 同じ辞書が繰り返し現れること
- 初期辞書が許容でない場合はどうする？

最小化  $-2x_1 - x_2 - x_3$

条件  $-2x_1 - 2x_2 + x_3 \geq 3$

$-2x_1 - 4x_3 \geq -4$

$x_1 \geq 0, x_2 \geq 0, x_3 \geq 0$



$$z = 0 - 2x_1 - x_2 - x_3$$

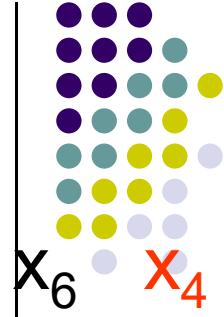
$$x_4 = -3 - 2x_1 - 2x_2 + x_3$$

$$x_5 = 4 - 2x_1 - 4x_3$$

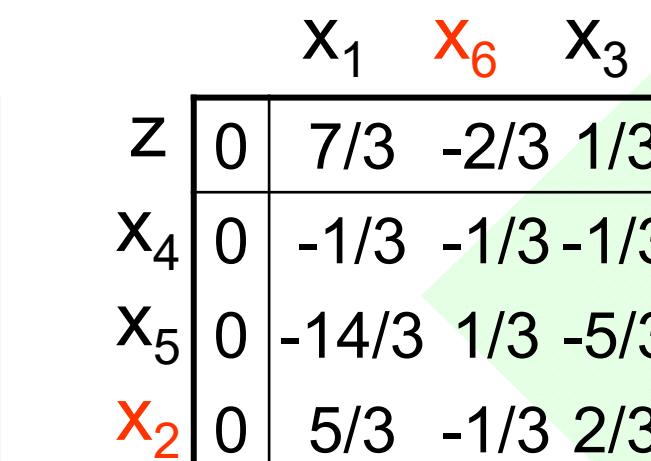
# 巡回の例

	$x_1$	$x_2$	$x_3$	
$z$	0	-1	2	-1
$x_4$	0	-2	1	-1
$x_5$	0	-3	-1	-1
$x_6$	0	5	-3	2

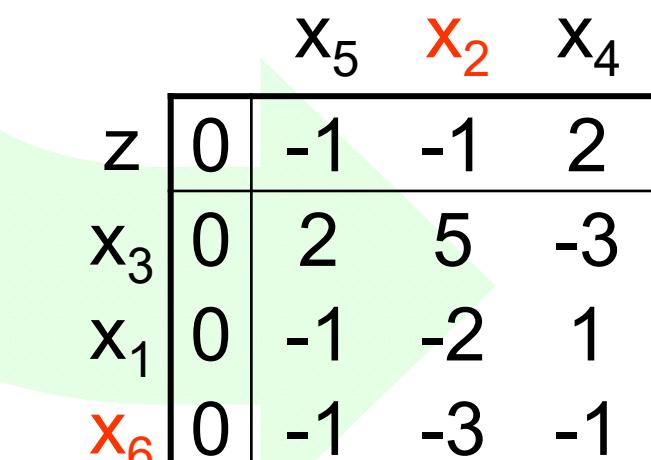
	$x_1$	$x_6$	$x_3$	
$z$	0	7/3	-2/3	1/3
$x_4$	0	-1/3	-1/3	-1/3
$x_5$	0	-14/3	1/3	-5/3
$x_2$	0	5/3	-1/3	2/3



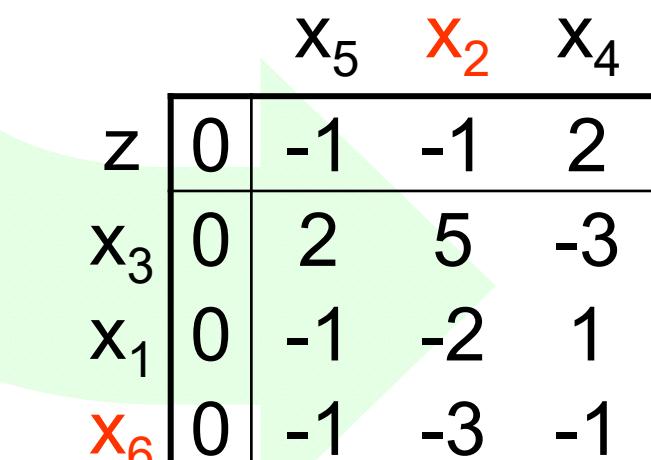
	$x_1$	$x_6$	$x_4$	
$z$	0	2	-1	-1
$x_3$	0	-1	-1	-3
$x_5$	0	-3	2	5
$x_2$	0	1	-1	-2



	$x_5$	$x_2$	$x_3$	
$z$	0	1/3	7/3	-2/3
$x_4$	0	2/3	5/3	-1/3
$x_1$	0	-1/3	-1/3	-1/3
$x_6$	0	-5/3	-14/3	1/3



	$x_5$	$x_2$	$x_4$	
$z$	0	-1	-1	2
$x_3$	0	2	5	-3
$x_1$	0	-1	-2	1
$x_6$	0	-1	-3	-1



	$x_5$	$x_6$	$x_4$	
$z$	0	-2/3	1/3	7/3
$x_3$	0	1/3	-5/3	-14/3
$x_1$	0	-1/3	2/3	5/3
$x_2$	0	-1/3	-1/3	-1/3



# 単体法と巡回

- 基底・非基底変数が決まると、**辞書は一意**に定まる
- 基底・非基底変数の組合せは**有限個**
  
- 単体法は辞書を繰り返し生成する
- 単体法が終了しない → 辞書が無限に生成される
  - 同じ辞書が何回も現れる
  - 巡回が起こっている

注意：巡回が起こっているときは  
目的関数値が変化しない

# 最小添字規則



ピボット演算のとき、

最小添字規則(smallest subscript rule)を適用

⇒ 有限反復で終了

基底に入る  
変数の候補

- ステップ1にて係数が負の非基底変数が複数存在  
⇒ 添字最小のものを選択

基底から出る  
変数の候補

- ステップ2にて値が0に減少する基底変数が複数存在  
⇒ 添字最小のものを選択

# 最小添字規則の適用例



に入る変数の候補

	$x_1$	$x_2$	$x_3$
$x_4$	0	-1	2
$x_5$	0	-2	1
$x_6$	0	-3	-1
$z$	0	5	-3

出る  
変数  
の候補

$x_1$  はどれだけ増やせるか?

$$x_4: 0 \rightarrow 0 - 2\alpha$$

$$x_5: 0 \rightarrow 0 - 3\alpha$$

$$x_6: 0 \rightarrow 0 + 5\alpha$$

$\therefore \alpha$ は最大 0

そのとき  $x_4 = x_5 = 0$

注意:  $x_6$  は増加するので、  
出る変数の候補ではない！

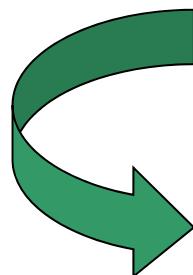


# 最小添字規則の適用例(つづき)

に入る変数の候補

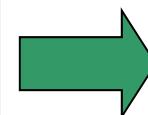
出る  
変数  
の候補

	$x_1$	$x_2$	$x_3$
$x_4$	0	-1	2
$x_5$	0	-2	1
$x_6$	0	-3	-1
$z$	0	5	-3
	-1	2	-1
	-2	1	-1
	-3	-1	-1
	2	-3	5



最適

	$x_4$	$x_2$	$x_3$
$x_1$	0	$1/2$	$3/2$
$x_5$	0	$-1/2$	$1/2$
$x_6$	0	$3/2$	$-5/2$
$z$	0	$-5/2$	$-1/2$
	$-1/2$	$1/2$	$1/2$
	$3/2$	$-5/2$	$1/2$
	$-5/2$	$-1/2$	$-1/2$



	$x_4$	$x_2$	$x_1$
$x_3$	0	1	1
$x_5$	0	-1	1
$x_6$	0	1	-2
$z$	0	1	-1
	-1	1	-2
	1	-2	-1
	-2	-1	1



## 2段階単体法

### 単体法の問題点

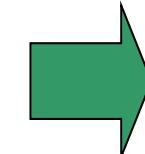
- 初期辞書が許容でない場合はどうする？

最小化  $-2x_1 - x_2$

条件  $-2x_1 - x_2 \geq 3$

$$-2x_1 + 3x_2 \geq -4$$

$$x_1 \geq 0, x_2 \geq 0$$



$$z = 0 - 2x_1 - x_2$$

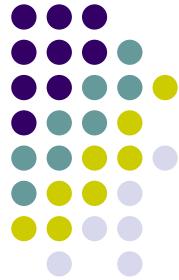
$$x_3 = -3 - 2x_1 - x_2$$

$$x_4 = 4 - 2x_1 + 3x_2$$

実は実行不可能なLP

基底解(0,0,-3,4)は  
許容解でない

- そもそも、LPの実行可能、不可能はどうやって判定する？



## 2段階単体法の流れ

- 任意のLPに適用可、実行可能性も判定
- 単体法を2回使用

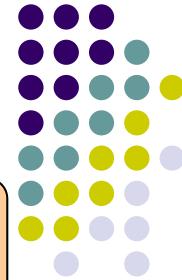
### 1段階目：実行可能性の判定

- **補助問題**を作成
  - 単体法を適用、元の問題の実行可能性を調べる
  - 許容解をもたない ⇒ 終了
  - 許容解をもつ ⇒ 許容辞書を出力、2段階目へ

### 2段階目：非有界性判定、最適解の検出

- 1段階目で求めた許容辞書に単体法を適用

# 補助問題の作り方



元の問題



$$\text{最小化 } c_1x_1 + \cdots + c_nx_n$$

$$\text{条件 } a_{11}x_1 + \cdots + a_{1n}x_n \geq b_1$$

...

$$a_{m1}x_1 + \cdots + a_{mn}x_n \geq b_m$$

$$x_1 \geq 0, \dots, x_n \geq 0$$

補助問題

人工変数

$$\text{最小化 } x_a$$

$$\text{条件 } a_{11}x_1 + \cdots + a_{1n}x_n + x_a \geq b_1$$

...

$$a_{m1}x_1 + \cdots + a_{mn}x_n + x_a \geq b_m$$

$$x_1 \geq 0, \dots, x_n \geq 0, x_a \geq 0$$

- 大きな  $x_a$  に対して  $(x_1, \dots, x_n, x_a)$  は許容解
- 元の問題が実行可能  $\Leftrightarrow$  補助問題の最適値 = 0
- $(x_1, \dots, x_n)$ : 元の問題の許容解  
 $\Leftrightarrow (x_1, \dots, x_n, 0)$ : 補助問題の許容解

# 補助問題の解き方(その1)



元問題



最小化  $-x_1 - 2x_2$

条件  $-x_1 - x_2 \geq -1$

$$x_1 + x_2 \geq 1$$

$$x_1 \geq 0, x_2 \geq 0$$

補助問題

最小化  $x_a$

条件  $-x_1 - x_2 + x_a \geq -1$

$$x_1 + x_2 + x_a \geq 1$$

$$x_1 \geq 0, x_2 \geq 0, x_a \geq 0$$

初期辞書

元問題の目的  
関数も追加

$$z_a = x_a$$

$$z = -x_1 - 2x_2$$

$$x_3 = 1 - x_1 - x_2 + x_a$$

$$x_4 = -1 - x_1 + x_2 + x_a$$

負の値なので  
許容辞書ではない



# 補助問題の解き方(その2)



許容でない初期辞書

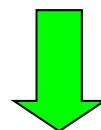
→ ピボット演算により許容辞書へ

$$z_a = 0 \quad x_a$$

$$z = 0 - x_1 - 2x_2$$

$$x_3 = 1 - x_1 - x_2 + x_a$$

$$x_4 = -1 + x_1 + x_2 + x_a$$



$x_a$  と  $x_4$  を入れ替え

- 非基底変数  $x_a$  を基底に入れる
- 基底変数の式の定数項を比較
- 定数項最小の基底変数を  
基底から出す

⇒ 許容辞書が得られる

$$z_a = 1 - x_1 - x_2 + x_4$$

$$z = 0 - x_1 - 2x_2$$

$$x_3 = 2 - 2x_1 - 2x_2 + x_4$$

$$x_a = 1 - x_1 - x_2 + x_4$$

# 補助問題の解き方(その3)



許容辞書が得られた  
→ 単体法で最適解を求める

係数が全て非負  
なので最適

$$\begin{aligned} z_a &= 1 - x_1 - x_2 + x_4 \\ z &= 0 - x_1 - 2x_2 \\ x_3 &= 2 - 2x_1 - 2x_2 + x_4 \\ x_a &= 1 - x_1 - x_2 + x_4 \end{aligned}$$

$x_1$  と  $x_a$  を  
入れ替え



$$\begin{aligned} z_a &= 0 + x_a \\ z &= -1 + x_a - x_2 - x_4 \\ x_3 &= 0 + 2x_a - x_4 \\ x_1 &= 1 - x_a - x_2 + x_4 \end{aligned}$$

- 補助問題の最適値  $z_a = 0 \Rightarrow$  元問題は実行可能
- 現在の基底解  $(1, 0, 0, 0)$ : 元問題の許容解
- $x_a$  が非基底変数  
 $\Rightarrow$  最終辞書から  $x_a, z_a$  を削除すると元問題の許容辞書

# 補助問題の解き方(その4)



最終辞書で  $x_a$  が基底に入っている場合は？

係数が全て非負なので最適

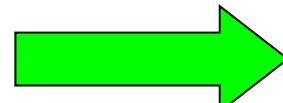
$$z_a = 1 - x_1 - x_2 + x_4$$

$$z = 0 - x_1 - 2x_2$$

$$x_3 = 2 - 2x_1 - 2x_2 + x_4$$

$$x_a = 1 - x_1 - x_2 + x_4$$

$x_1$  と  $x_3$  を  
入れ替え



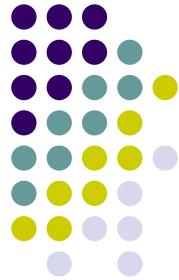
$$z_a = 0 + \frac{1}{2}x_3 + \frac{1}{2}x_4$$

$$z = -1 + \frac{1}{2}x_3 - x_2 - \frac{1}{2}x_4$$

$$x_1 = 1 - \frac{1}{2}x_3 - x_2 + \frac{1}{2}x_4$$

$$x_a = 0 + \frac{1}{2}x_3 + \frac{1}{2}x_4$$

元問題の許容辞書をどうやって求めるか？



## 補助問題の解き方(その5)

最適辞書において  $x_a$  が基底に入っている  
→ ピボット演算で  $x_a$  を基底から出す

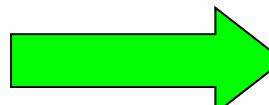
$$z_a = 0 + \frac{1}{2}x_3 + \frac{1}{2}x_4$$

$$z = -1 + \frac{1}{2}x_3 - x_2 - \frac{1}{2}x_4$$

$$x_1 = 1 - \frac{1}{2}x_3 - x_2 + \frac{1}{2}x_4$$

$$x_a = 0 + \frac{1}{2}x_3 + \frac{1}{2}x_4$$

$x_3$  と  $x_a$  を  
入れ替え



$$z_a = 0 + x_a$$

$$z = -1 + x_a - x_2 - x_4$$

$$x_1 = 1 - x_a - x_2 + x_4$$

$$x_3 = 0 + 2x_a - x_4$$

$x_a$  が非基底にある

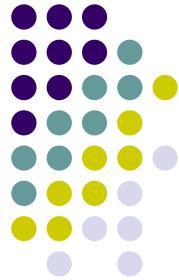
$\Rightarrow x_a, z_a$  を削除すると  
元問題の許容辞書

係数が非ゼロの  
変数と  $x_a$  を入れ替え

$$z = -1 - x_2 - x_4$$

$$x_1 = 1 - x_2 + x_4$$

$$x_3 = 0 - x_4$$



## 2段階単体法の2段階目

1段階目で得られた許容辞書に  
単体法を適用

$$\begin{aligned} z &= -1 - x_2 - x_4 \\ x_1 &= 1 - x_2 + x_4 \\ x_3 &= 0 - x_4 \end{aligned}$$

$x_2$  と  $x_1$  を  
入れ替え

→

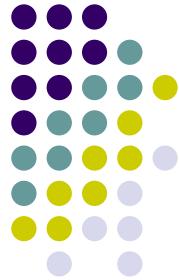
$$\begin{aligned} z &= -2 + x_1 - 2x_4 \\ x_2 &= 1 - x_1 + x_4 \\ x_3 &= 0 - x_4 \end{aligned}$$

$x_4$  と  $x_3$  を  
入れ替え

→

$$\begin{aligned} z &= -2 + x_1 + 2x_3 \\ x_2 &= 1 - x_1 - x_3 \\ x_4 &= 0 - x_3 \end{aligned}$$

最適解  $(0, 1, 0, 0)$  が得られた



# 2段階単体法の流れ

- 入力: 不等式標準形のLP

## 1段階目: 実行可能性の判定

- 補助問題に単体法を適用、

元問題の実行可能性を調べる

許容解をもたない  $\Rightarrow$  終了

許容解をもつ  $\Rightarrow$  許容辞書を出力、2段階目へ

## 2段階目: 非有界性判定、最適解の検出

- 1段階目で求めた許容辞書に単体法を適用

非有界  $\Rightarrow$  終了

有界  $\Rightarrow$  最適解を出力

∴ 実行可能で有界なLPは最適解をもつ(基本定理)



# 双対定理

定理2. 3(双対定理, duality theorem) :

主問題または双対問題が最適解をもつ

⇒ 他方も最適解をもち、かつ最適値が一致する

以下では、具体例を使って証明の流れを説明する



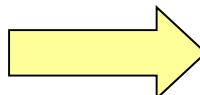
# 双対定理の証明(その1)

## 主問題

最小化  $-2x_1 - x_2 - x_3$   
条件  $-2x_1 - 2x_2 + x_3 \geq -4$   
 $-2x_1 - 4x_3 \geq -4$   
 $4x_1 - 3x_2 + x_3 \geq -1$   
 $x_1 \geq 0, x_2 \geq 0, x_3 \geq 0$

## 初期辞書

最小化  $z$   
条件  $z = 0 - 2x_1 - x_2 - x_3$   
 $x_4 = 4 - 2x_1 - 2x_2 + x_3$   
 $x_5 = 4 - 2x_1 - 4x_3$   
 $x_6 = 1 + 4x_1 - 3x_2 + x_3$   
 $x_1 \geq 0, \dots, x_6 \geq 0$



## 双対問題

最大化  $-4y_1 - 4y_2 - y_3$   
条件  $-2y_1 - 2y_2 + 4y_3 \leq -2$   
 $-2y_1 - 3y_3 \leq -1$   
 $y_1 - 4y_2 + y_3 \leq -1$   
 $y_1 \geq 0, y_2 \geq 0, y_3 \geq 0$

- 主問題のスラック変数
- 主問題の制約
- 双対問題の変数  
の間の1対1対応

$$\begin{aligned}x_4 &\leftrightarrow \text{第1制約} \leftrightarrow y_1 \\x_5 &\leftrightarrow \text{第2制約} \leftrightarrow y_2 \\x_6 &\leftrightarrow \text{第3制約} \leftrightarrow y_3\end{aligned}$$



# 双対定理の証明(その2)

## 主問題

最小化  $-2x_1 - x_2 - x_3$   
 条件  $-2x_1 - 2x_2 + x_3 \geq -4$   
 $-2x_1 - 4x_3 \geq -4$   
 $4x_1 - 3x_2 + x_3 \geq -1$   
 $x_1 \geq 0, x_2 \geq 0, x_3 \geq 0$

主問題の最適解は

$x_1^* = 2, x_2^* = 0, x_3^* = 0$ , 最適値 = -4

$$y_1^* = \frac{3}{5}, y_2^* = \frac{2}{5}, y_3^* = 0$$

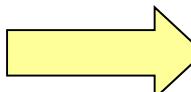
$\uparrow \quad \uparrow \quad \uparrow$   
 $x_4 \quad x_5 \quad x_6$

が双対問題の許容解,  
目的関数値 = -4

となることを示せば証明終了(弱双対定理の系より)

## 初期辞書

最小化  $z$   
 条件  $z = 0 - 2x_1 - x_2 - x_3$   
 $x_4 = 4 - 2x_1 - 2x_2 + x_3$   
 $x_5 = 4 - 2x_1 - 4x_3$   
 $x_6 = 1 + 4x_1 - 3x_2 + x_3$   
 $x_1 \geq 0, \dots, x_6 \geq 0$



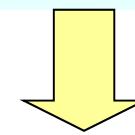
## 最終辞書

$$z = -4 + (3/5)x_4 + (1/5)x_2 + (2/5)x_5$$

$$x_1 = 2 - (2/5)x_4 - (4/5)x_2 - (1/10)x_5$$

$$x_3 = 0 + (1/5)x_4 + (2/5)x_2 - (1/5)x_5$$

$$x_6 = 9 - (7/5)x_4 - (29/5)x_2 - (3/5)x_5$$





## 双対定理の証明(その3)

$$x_4 \quad x_5 \quad x_6$$
$$y_1^* = \frac{3}{5}, y_2^* = \frac{2}{5}, y_3^* = 0$$

が双対問題の許容解,  
目的関数値 = -4

となることを示す

### 最終辞書

$$z = -4 + (3/5)x_4 + (1/5)x_2 + (2/5)x_5$$
$$x_1 = 2 - (2/5)x_4 - (4/5)x_2 - (1/10)x_5$$
$$x_3 = 0 + (1/5)x_4 + (2/5)x_2 - (1/5)x_5$$
$$x_6 = 9 - (7/5)x_4 - (29/5)x_2 - (3/5)x_5$$

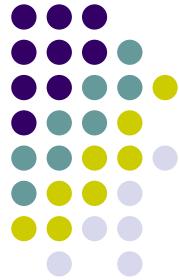
$$x_1 \quad x_2 \quad x_3$$
$$y_4^* = 0, y_5^* = \frac{1}{5}, y_6^* = 0$$

と便宜上おく

最終辞書なので,  
z の式の係数は非負  
→  $y_i^*$  はすべて非負

z の式の右辺を書き換える

$$\begin{aligned} z &= -4 + (y_1^*x_4 + y_5^*x_2 + y_2^*x_5) + (y_4^*x_1 + y_6^*x_3 + y_3^*x_6) \\ &= -4 + y_4^*x_1 + y_5^*x_2 + y_6^*x_3 + y_1^*x_4 + y_2^*x_5 + y_3^*x_6 \end{aligned}$$



# 双対定理の証明(その4)

## 最終辞書

$$z = -4 + y_4^*x_1 + y_5^*x_2 + y_6^*x_3 + y_1^*x_4 + y_2^*x_5 + y_3^*x_6$$

$$x_1 = 2 - (2/5)x_4 - (4/5)x_2 - (1/10)x_5$$

$$x_3 = 0 + (1/5)x_4 + (2/5)x_2 - (1/5)x_5$$

$$x_6 = 9 - (7/5)x_4 - (29/5)x_2 - (3/5)x_5$$

$(x_1, x_2, \dots, x_6, z)$ は  
最終辞書の解  $\leftrightarrow$  初期辞書の解

## 初期辞書

$$z = 0 - 2x_1 - x_2 - x_3$$

$$x_4 = 4 - 2x_1 - 2x_2 + x_3$$

$$x_5 = 4 - 2x_1 - 4x_3$$

$$x_6 = 1 + 4x_1 - 3x_2 + x_3$$

初期辞書の4つの式を  
最終辞書の $z$ の式に代入



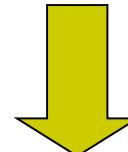
# 双対定理の証明(その5)

## 最終辞書の $z$ の式

$$\text{左辺} = 0 - 2x_1 - x_2 - x_3$$

$$\begin{aligned}\text{右辺} &= -4 + \{y_1^*(4 - 2x_1 - 2x_2 + x_3) \\&\quad + y_2^*(4 - 2x_1 - 4x_3) \\&\quad + y_3^*(1 + 4x_1 - 3x_2 + x_3)\} \\&\quad + (y_4^* x_1 + y_5^* x_2 + y_6^* x_3) \\&= (-4 + 4y_1^* + 4y_2^* + y_3^*) \\&\quad + (y_4^* - 2y_1^* - 2y_2^* + 4y_3^*)x_1 \\&\quad + (y_5^* - 2y_1^* - 3y_3^*)x_2 \\&\quad + (y_6^* + y_1^* - 4y_2^* + y_3^*)x_3\end{aligned}$$

この式は恒等式、  
任意の  $x_1, x_2, x_3$  に対して成り立つ  
→ 両辺の各項の  
係数、定数は等しい



$$0 = (-4 + 4y_1^* + 4y_2^* + y_3^*)$$

$$-2 = (y_4^* - 2y_1^* - 2y_2^* + 4y_3^*)$$

$$-1 = (y_5^* - 2y_1^* - 3y_3^*)$$

$$-1 = (y_6^* + y_1^* - 4y_2^* + y_3^*)$$



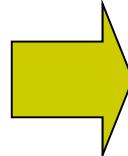
## 双対定理の証明(その6)

$$0 = (-4 + 4y_1^* + 4y_2^* + y_3^*) \rightarrow -4y_1^* - 4y_2^* - y_3^* = -4$$

双対問題において

$(y_1^*, y_2^*, y_3^*)$  の 目的関数値 = -4

$$-2 = (y_4^* - 2y_1^* - 2y_2^* + 4y_3^*)$$



$y_4^*, y_5^*, y_6^*$  は 非負なので

$$-2 \geq -2y_1^* - 2y_2^* + 4y_3^*$$

$$-1 = (y_5^* - 2y_1^* - 3y_3^*)$$

$$-1 \geq -2y_1^* - 3y_3^*$$

$$-1 = (y_6^* + y_1^* - 4y_2^* + y_3^*)$$

$$-1 \geq y_6^* + y_1^* - 4y_2^* + y_3^*$$

最大化  $-4y_1 - 4y_2 - y_3$

条件  $-2y_1 - 2y_2 + 4y_3 \leq -2$

$$-2y_1 - 3y_3 \leq -1$$

$$y_1 - 4y_2 + y_3 \leq -1$$

$$y_1 \geq 0, y_2 \geq 0, y_3 \geq 0$$

$(y_1^*, y_2^*, y_3^*)$  は  
双対問題の許容解

双対定理の証明終わり



# 今日の演習問題

問1: 右の辞書に最小添字  
規則を適用して  
解きなさい.

	$x_1$	$x_2$	$x_3$
$z$	0	-1	2
$x_4$	6	-2	2
$x_5$	3	-1	-1
$x_6$	3	-1	-1

問2: 次の線形計画問題を二段階単体法で解きなさい.

(a) 最小化  $-3x_1 - 2x_2$   
条件  $2x_1 - x_2 \geq -1$   
 $-x_1 + 2x_2 \geq 4$   
 $-x_1 - x_2 \geq -2$   
 $x_1 \geq 0, x_2 \geq 0$

(b) 最小化  $-3x_1 - 2x_2$   
条件  $2x_1 - x_2 \geq -1$   
 $-x_1 + 2x_2 \geq 0$   
 $x_1 + x_2 \geq 2$   
 $x_1 \geq 0, x_2 \geq 0$